1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

活動予定

12 月

2 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
3 日　榛名女子学園プログラム
6 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
7 日　再乱用防止教育事業県央
8 日　少年問題会議
9 日　東京保護観察所プログラム　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
10 日　榛名女子学園プログラム
11 日　青藍泰斗高校講演　引受人相談会　再乱用防止教育事業県南
13 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
14 日　家族教室　再乱用防止教育事業県央
15 日　第 13 回チャリティコンサート＆バザー
16 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
18 日　再乱用防止教育事業県央
20 日　喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導　再乱用防止教育事業県北
21 日　Xmas キャンドルコンサート　川越少年刑務所施設見学
24 日　榛名女子学園プログラム　東京保護観察所プログラム
25 日　宇都宮保護観察所プログラム
26 日　茨城県立こころの医療センター
28 日　栃木ダルク３施設合同もちつき

1 月

6 日　黒羽刑務所薬物依存離脱指導
7 日　榛名女子学園プログラム
11 日　家族教室　再乱用防止教育事業県央

施設報告
那須 TC（初期・断薬）18 名　宇都宮 OP（後期・社会復帰）15 名
那珂川 CF（中後期・農作業）13 名　ピースフルプレイス（女性）11 名
計 57 名で活動しております。各々の施設で役割を持ったプログラムを
実施しております。

発行所
郵便番号一五七―〇〇七三　東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価１００円

編集　特定非営利活動法人栃木ＤＡＲＣ
〒320-0014
栃木県宇都宮市大曽 2-2-14　形松ビル３Ｆ
TEL 028-650-5582　FAX 650-5597

URL　http://www.t-darc.comE メール:nesm@t-darc.com

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

SSKO

栃木ダルク
***ニュースレター*　第 128 号（2013, 12,12）**

Grow up!!

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

回復のメッセージ

栃木 DARC
那須 TC 施設長　秋葉紀男

めっきり寒くなり、那須の山々も薄らと雪化粧をして本格的な冬の到来を告げています。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

１０月に移動があり那須 TC を担当する事になり、早一ヶ月がたちました。

宇都宮と那須の違いは、宇都宮は街の中心部にあり、ある程度クリーンタイムがある仲間が生活していて、那須は山の中にあり、クリーンタイムの短い仲間がいる事です。プログラム的な関わりの中で、ある程度のクリーンタイムとプログラム期間がある仲間と無い仲間との関わり方が変わってくるのは言うまでもありません。

私が那須を担当するようになってから２名の退寮者が出ましたが、やはりその理由は、俺はもう治ったとか、俺は社会でやれるとかの理由です。

多くの仲間が、薬が止まったら回復だと思っていますが、薬物依存症からの回復とは薬を止める事も大切な事ですが、それだけでは不十分なのです。

薬がとまってから生き方を変えて行く中で薬を止め続ける為のプログラムを継続して自分を変え続ける作業を一生続けて行かないと回復は成り立ちません。

これを聞くと薬物依存症から回復するのはとても大変な事なのだと思いますが、その大変な事を私たちはやっている訳ですが、薬を一生止めようとは思っていません。

NA のプログラムの中で「今日一日」というスローガンがあり、今日一日薬を止める事にして明日はもしかしたら使っているかもしれないという考えかをしています。一生止めようと思うのはとても先が長く苦しくなるからです。

ダルク職員の仕事は、自分の回復を仲間に伝えて行く事で、仕事の延長線上に自身の回復があるような気がします。私自身も仲間との関わりの中で気付かされる事が沢山あり、仲間の中にいる事で自分の病気に向き合える事に感謝しています。

最初はとても辛かった毎日もクリーンを続ける事によって段々と幸せを感じられるようになってきたし、先行く仲間が言っていた事がようやく分かって来たような気がします。

最初は届いてくれないかも知れないけど、いつか必ず届いてくれると信じて回復のメッセージをこれからも伝えて行きたいと思っています。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8491 号

継続をしている依存症者たち

宇都宮 OP　吉岡　俊輔

師走となり寒さが増す季節となってきました。ここ宇都宮でも本格的な冬の到来を感じます。おかげさまで宇都宮の仲間達は大きな病気等無く、元気に過ごしています。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

10 月に異動があり、宇都宮の施設を担当させていただくこととなりました。お世話になっている皆様には、恐縮ですがこの場において挨拶とさせて頂けたらと思います。

さて､宇都宮 OP ですが現在 15 名のスタッフ研修を含む利用者がプログラムを進めています。内、8 名が外部でのアルバイトや作業所を利用しての社会復帰準備を行っていて、私が数年前にいた頃より積極的な社会参加の意志を感じます。その頃と今とでは、社会的な状況や医療での診断の違い等もあるのかもしれませんが、当時、依存症（に至るまでの生きづらさ）と他の生きづらさを障がいとして認められるケースは今よりは少なかったように思います。結果として障がい者手帳を受取り作業所に通えるようになったり、そこでの経験をした上でアルバイトを始められることにも繋がっているよう思います。ダルクで集団生活を送り、プログラムを深めていった仲間達が社会に新しい居場所を見つけて行く事は喜ばしく思います。そこで今まで変え続けて来た生き方を実践する事や、仕事や人間関係で一喜一憂することで精神的な成長をしてもらえることに大きな価値を感じます。

ところで、栃木ダルクでステージプログラムが３段階に変わった事で新たなプログラムが２つ導入されました。１つはプログラムの進度の指標の１つとなる 3stage program と、気持ちの良いこじれない人間関係作りの練習をするアサーティブトレーニングが始まりました。これは自分がどんな精神的なタイプかを把握し、どのような伝え方、受け取り方をする事で生きやすさに繋げるプログラムです。これまで関わって来た仲間達を思い返すと、これが極端だった仲間が多く、苦しい思いをしてきたのではないかと思います。それまでしていた自己表現や表現する事が出来なかった事、習慣化された物事の考え方、感じ方を急に変えるのは難しい事ではありますが、どのプログラムにも共通して言える事ですが、繰り返し行う事、継続する事で効果を期待している所です。

プログラムの司会をして行く中で感じる事ですが、もしかしたら私自身が一番効果を感じているのかもしれません。無意識に自分が辛いなと感じていた部分が明確になったように思いますし、色々な方法で伝える事が出来るし受取る準備が出来るのだなと改めて感じています。

また私は入寮中、施設から提供されたプログラムを受取り進めて行く中で自身の問題を自助グループで解決することが少なかったように感じています。
表面化された問題が覚せい剤でしたので､その深い所に隠れていた同等にある大麻の問題をぞんざいにしていました｡そこで先日、横浜にある大麻依存の自助グループにお邪魔してメッセージを受け取ってきました｡過去に宇都宮でもそのグループを行っていたのですが、当時は事情が重なり閉めてしまいました。それで今回改めて会場を開き、自身にも、同じ問題を抱えている仲間達にも少しでも楽になれる場所になる事を願って継続できたらと思います。

これからも､仲間とともに公私ともに安全な居場所作りをつづけて参りますので栃木ダルクをよろしくお願い致します。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

Ｚ伝説

依存症の Z

自分も、皆様と同じように生まれてきましたが、小学生 5 年生の頃にタバコを友達と吸い、その頃はなんで大人はこんな物を吸うのだろうと思いましたが、中学生になると、制服のポケットにはタバコ、ライター、ハイチューが入っていました。机の中にはお菓子などが入っており、学校に持っていくのは給食を食べるスプーンだけでした。

中学 1 年の夏、友達の彼女に誘われて行ってみると、友達とその彼女はシンナーを吸い始めました。トイレに行くからとシンナーを渡されました。吸ってもいいよと言われても全く自分には興味がありませんでしたが、匂いくらいはと思い鼻で嗅ぐと、知らずのうちに口に手がのび、吸っていました。そしてシンナーは止められず、なければ先輩から買う、でもなければホームセンターで買うなり、万引きをしたり、トラックを盗難して工場に盗みに入りました。倉庫にガラスが貼っていれば大きな石を投げてわり、南京錠でしめられていればバンセンカッターで切り、なんとしてでも欲しい物は手にしました。

ある日、先輩や友達はシャブをやっており、自分にすすめてきて、嫌だと言えず、体が不自由な自分に「打ってやるから」と言うと、手をおさえ、打たれましたが自分には合わなく、それを言うと、さらに打たれても、全然何もおきなかったので、その日に 8 発を打つと臭いから天窓を開けてくれと言われ､立ち上がるとゴミ袋に吐き戻しました｡そして 3 日間続けても何も起きず、大麻、マリファナ、ハッシッシもやってもなんにも起きず、ラッシュを先輩にもらい、それを吸引すると心臓がドキドキして頭に血がのぼって楽しくなりました。これをやって死んでもいいやと思いました。そんな自分が今では情けないです。

なんでもラッシュ、そんな物をやらなくても興奮する時は興奮するからです!

シンナーをやり続けて 25 年以上、その中で友達にチクられ警察で有名人物となり、懲りずにシンナーを吸い続け、最終的には裁判所で執行猶予 3 年もらって家に帰れば懲りずにシンナーを吸っていました。

そして同じ学校の友達が 2 回目の市議会委員の選挙で全く興味の無い自分に何故か投票したくなり､投票に行った帰り道､純度の強いシンナーの匂いがして､すぐにもシンナーが欲しくなり、電話をして先輩に買ってきて貰いました。最終的にはまたシンナー臭いとなり、警察に連れて行かれましたが家に帰ればまたシンナーを吸う有様でした。

そして傷害事件を起こしてしまいました。すぐに走って逃げて行ってしまったので、近場の交番にでも行ったのだろうと思った自分は捕まるのを覚悟して、直管（ティッシュなどに吹き付けた）でシンナーを吸っていました｡やがて警察が来て逮捕されました｡そこでは知っている先輩、昔近所のおじさんまで入ってきました。それから裁判を待ち、8 ヶ月の刑期を貰い、刑務所にしばらく居ると、前の刑期 6 ヶ月が加算されて 1 年 2 ヶ月居る事になりました。無事に釈放されると、家に帰れると思いましたが迎えに来てくれた支援センターの人に「家には帰れないよ」と言われ、精神病院の部屋の空き待ちを地元の病院で待ち、部屋が空くと連絡があったみたいで、精神病院入院。そこではミーティングをする毎日が始まりました。

自分の場所は DR（ドラック依存）でした。そこで知り合った仲間たちもダルクの仲間と同じ、自分と同じ苦しみ、もっと苦しんでいる仲間も居ましたが、基本 3 ヶ月契約退院となり生き別れをしている父親を市役所で探すと、再開して一緒に住まわせてくれと頼みましたが、父親も引っ越すまで忙しいから待ってくれと言われました。そうすると自分は行く所が無くなり、そして施設の仲間との生活が始まりました。たまには辛い事もありますが、スリップしないで良く頑張てきたと思います。社会に出てもクリーンを伸ばして行く事を誓います

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

今を生きる

シオン

十七歳の夏、僕は自信喪失からくる鬱病の発症で、高校を中退した。僕の通っていた高校は他県で有数の進学校で、その高校への入学を夢見て勉強に励んだ。その甲斐あって合格し入学を果たすのだが、勉強についていけずに落ちこぼれていく現実が僕を待っていた。中退したその日、悔しさと情けなさで、迎えに来てくれた母親の車の中で号泣したことを鮮明に覚えている。それからの僕は、何をするわけでもなく引きこもって過ごした。

そして、僕の運命を変える出来事が起こる。中学時代の同級生との再会だ。その仲間達と共有する時間は僕にとっては未経験のことばかりで、とても新鮮だった。ある日、「パーティをやるから来てみたら？」とメールが届く。何のことか皆目見当が付かなかったが仲間外れになりたくなかったのでいつもの場所に向かった。そこで手渡されたのは干からびた灰色の物体。周囲を見渡すと仲間が、それを口の中に運ぶ姿が確認できた。僕も同じようにその灰色の物体を口の中に入れた。十分ほどしてから、僕の五感が言葉では言い表せない状態になった。僕がその時食べたのは、「脱法ドラッグ」だった。自暴自棄になっていた僕が、辛くて認めたくない現実から目を背ける為に脱法ドラッグに依存し、それ無しでは生きていくのが困難になるまでに時間は長くはかからなかった。毎日のように使い続け、生活はさらに乱れていった。クスリを手に入れるために家族にたくさんの嘘をつき、約束を破る。精神的な傷を負わせた家族との関係は、めちゃくちゃになった。

その結果、栃木ダルクに繋がることになり、家族と自由に会うことは許されず行動も制限された。協調性の欠片も無かった僕は団体生活に馴染めず、何回も施設を飛び出しては薬を使い再び施設に戻ってくることを繰り返した。そんな僕に、転機が訪れる。それは那須の初期施設から宇都宮の社会復帰施設への移動だった。そこでのプログラムや共に歩んでくれる仲間の存在が、僕に勇気をくれ、薬を使わずに生きることの重要性を教えてくれたのだと思う。そして僕は今、コンビニでの仕事をしながら通信制の高校に入学し、二回目の高校生活を送っている。久しぶりの学校生活や勉強を始めることに、やっていけるか不安だった。今も、進学校で学んでいたプライドと、虚しく費やした十年以上の月日を呪いたくなる気持ちとの葛藤がある。気分が落ち込むと、「何をしても手遅れ」という想いに囚われてしまうこともある。しかし、失われた時間があるからこそ逃げて引きこもったり自暴自棄になっている暇は自分にはない。今を精一杯生きることが、過去を受け入れられる唯一の方法なのかもしれない。高校卒業という目標のその先には、通信制の大学に進んで福祉を学び、資格を取得して社会に貢献するという夢がある。かつての自分のように生きづらさを感じている人に手を差し伸べ、社会の側から支える人になりたい。今、使い続けていた薬物を手放して、５年の月日が経とうとしている。それは、家族をはじめ、出会った多くの人の手助けがあったからこそ為し得たことだ。だからこれからも、周囲の人への感謝を忘れずに、前を向いて自分の希望の実現に努力していこうと思う。過去をなかったことにすることは出来ないが、弱かった自分も受け入れて、僕は今を生きたい。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

チャリティーウォーク 56.7 に参加して来ました。栃木ダルクはチームトリオトメとして参加。なんとか 56.7 ｷﾛを２日間かけて完歩してきました。

家族の苦労

チィ（メンバー）

初めまして。アディクトのチィです。DARC に入寮して、９ヶ月が経ちました。
初めの頃は、ホームシックになってしまい１度帰ってしまったのですが、もちろん家族が受け入れてくれる訳もなく、DARC に戻ってきました。今は、前向きにプログラムを受け、頑張っている途中です。

私が初めて覚せい剤と出会ったのが１４歳の頃でした。注射器を見て、ドキドキするような、怖い感じがしたのを覚えています。それから３２歳くらいまで約２０年間、覚せい剤を使っていました。もう、精神的にも心身もボロボロになってしまいました。２０代半ば頃だったと思います。その間に、止めるきっかけがありました。父の死です。私の父は歯科医なのですが、私も一緒に働いていました。とても立派な人で、とても尊敬出来る父でした。大好きな父でした。その父が亡くなったんで、止めるきっかけがあったのに、私は懲りずに、また覚せい剤に手を出してしまいました。その時の自分は情けなさに泣きながら使っていました。どうして私は、こうなんだろう・・。あんなに大好きだった父が亡くなったのに止める事が出来ないなんて・・。天国の父に会わせる顔がありませんでした。

母と妹に対しても、本当に申し訳ない事をしました。私が OD し、病院にタクシーで運ばれ、重体だと告げられました。そのことが、母にどれだけ心配させたかと考えると胸が痛いです。母は、もう６０を過ぎています。私は、いつまで母、妹に心配をかけさせるんだと思い、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

そんな生活が続いていて、母に「いい病院があるからピクニック気分で行ってみよう」と言われ、行く事になりました。まず病院に着いて直ぐ尿を取られ、反応が出てしまったんです。そしたら直ぐ入院！　母に騙されたと思いました。今まで母に嘘を言われた事は、ほとんど無かったから尚更でした。その病院生活は、プログラムがほとんど無く、食べて寝て、食べては寝るの、繰り返しでした。私は３ヶ月間の入院だったのですが、ブクブク太ってしまい、ヤバイと思いました。でも、クリーンな体を手に入れたと思う事にしています。

さぁ、私はこれからどうなってしまうのかと思っていたところに、母が DARC の人と面会に来たんです。この人たち、誰？と初めは思いました。その時、DARC の人たちが色々話してきて、本当は行きたくなかったのに「DARC に行くよ！」と言ってしまったんです。母を喜ばせたい一心でした。あの時の母の安心した顔を見た時、良かったって思ったのを今も覚えています。

そして、私は DARC に繋がり、生活をさせてもらっています。初めは DARC での生活に慣れるのに必死でした。生活リズムを正しくする事が本当に大変でした。

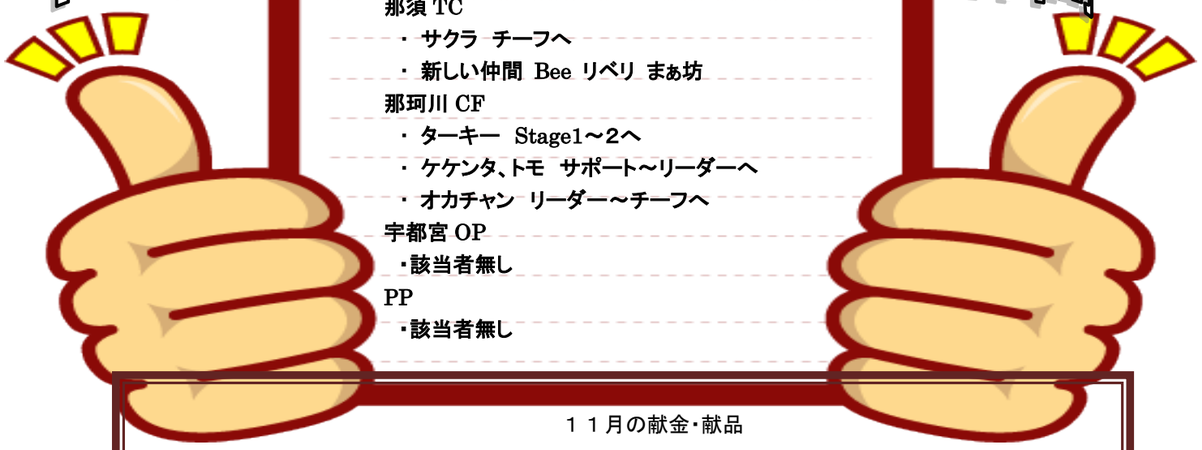
今まで薬を使っていた時は１人ぼっちでした。今、私には仲間がいます。もう、１人で考えることない！普通に相談出来る仲間が出来たんです。薬を使っていた時は、いつも嘘ばかり。本当に生きる事がどうにもならなくなっていました。今、仲間のおかげで自分に正直に過ごせています。

今まで、私が DARC に居る事が１番家族のためなんだと思い生活をしていましたが、今は自分のために居ると思い始め、変化している様な気がしています。ここでの生活はラクではありません。今まで、メチャクチャだったから、そんな事も出来なくなっていたんだなぁと思います。

自分のペースで、ゆっくりでも良いから回復していき、家族に安心してもらい、受け入れてもらいたいです。お母さん、妹、待っていてくださいね。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

１１月にステップアップした仲間



那須 TC
- **サクラ　チーフへ**
- **新しい仲間　Bee リベリ　まぁ坊**

那珂川 CF
- **ターキー　Stage1～2へ**
- **ケケンタ、トモ　サポート～リーダーへ**
- **オカチャン　リーダー～チーフへ**

宇都宮 OP
- **該当者無し**

PP
- **該当者無し**

１１月の献金･献品

(献品)j 那須町更生保護女性会様、黒崎貞造様、篠原父光男様、フードバンク宇都宮様、他匿名１名様

（献金）匿名3名様

とても助かっております。栃木ダルクー同感謝しております。

献品のお願い

- 修了者の為のバイクがあれば頂きたいです。古いバイクでも修理して乗るのでよろしくお願いします。
- 引き続き、修了者多数と各施設で社宅を用意して職員がすむ事になるので、電化製品（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ）等、一人暮らしで使いそうなものを献品いただけるとありがたいです。
- スノーボード、ウエア、ブーツの献品よろしくお願いします。
- ソフトボール同好会より　ソフトボール用品　特に左利き用グローブを献品お願いします。

お知らせと一言

- 先月から引き続き那珂川 CF でボランティア活動をしています。町内限定になりますがボランティアの依頼がありましたら那珂川 CF 担当　栃原　までご連絡下さい。
- 那須は早くも雪が降りましたよ。皆さんお体お大事に！

編集　秋葉

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

結　局　感　謝

Tac

こんにちは、依存症の Tac です。

今年の 9 月より栃木ダルク那須トリートメントセンターにお世話になっております。千葉ダルクで就労活動をしておりましたが、スリップしてしまいやっと 6 ヶ月のクリーンを迎える事が出来ました。この 6 ヶ月は本当に厳しい、自分の回復の資源が何かを知る良い機会になりました。

僕は、約 4 年前日本ダルクアウィクニングに入寮し 2 年 3 ヶ月を過ごしました。とにかく厳しい施設でした、人間関係、エイサー、役割、プログラム、仲間の手助け、そして自助グループ等、回復に必要な物を徹底的に学びました。当時施設で普通に生活をしているのに僕の周りには何時も争いや揉め事だらけでした。そんな毎日を過ごしている中、薬を止める事より生き方を変える必要性に気付きはじめます。「コントローラー」「言葉がきつい」「プライドが高い」「競争心が強い」「人を裁く」等、挙げればきりがありません。

初めの一年は、仲間との人間関係に悩みました。ダルクの間口は広くヤクザから、売人、オペラ歌手、DJ、ミュージシャン、ペンキ屋、サラリーマン、高校生、精神病を患った人、やマイノリティーの面々等、揉め事には事欠きませんでした。いつも「自分はお前らと違う」と考えていましたから、何かあれば他人を厳しい言葉で支配していました。また自分の余計な一言が大きな問題を引き起こし、それがきっかけで施設を出る仲間もいました。揉める度にスタッフルームに呼ばれ正しい事をしているのに何で俺ばかり怒られるのか不満ばかりでした。

当時の僕には人の病気を理解しろとか、自分の問題と人の問題を区別しろと言われても何の話か分かりませんでした。というより理解するつもりがありませんでした。しかしながら揉める度にスタッフは僕の不満を徹底的に聞いてくれました。時には厳しい言葉をもらいましたが、何時も 12STEP を通して丁寧に諦める事なく諭してくれました。何百時間話したか分かりません。その頃から少しずつ揉め事が減り自分が変わると周りが変わる感覚や、クリーンが伸びた事によって選択肢が広がる事を学びます。物事が上手く回り始める頃、移動の話があり千葉ダルクにお世話になることになりました。初めは何て自由な施設だと思いました。その自由を自分は群馬で頑張ってきたから当たり前だと考え傲慢な気持ちが頭をあげてきました。

仕事はトントン拍子に上手くいきました、次第に幾つかの部署を掛け持ち忙しくなり、自助グループのサービスもやめ、ミーティングに対する熱意も冷めました。仲間とも距離を置き、無理な埋め合わせを始めたりしました。先日、仲間に言われて STEP 1 の棚卸しをやってみてスリップして当然だと思いました。千葉ダルクでは社会の中での自由と責任を学びました。初めてシラフで自分の後始末をやりました、施設では立場が無く本当に惨めでした。それでもやっぱり仲間は良くしてくれました、特に自分が厳しく接していた仲間ほど僕を助けてくれました。

1976 年 2 月 25 日第三種郵便物認可（毎週 4 回月曜・火曜・木曜・金曜発行）
2013 年 12 月 12 日発行　ＳＳＫＯ　通巻第 8518 号

惨めな日々を過ごす中、変われるなら何でもやろうと思い出しました。仕事を止め持っていた信仰も手放しました。原点のミーティングに戻り真摯に回復と向き合いました。
けれどもすぐには楽になりません。さらに追い討ちをかけるかの様に高校時代からのラグビー部の大切な先輩であり大切な仲間が亡くなりました。でもそれで腹が決まりました問題から逃げず何度でもやり直すと。

栃木は今まで経験した事がないプログラムだらけでとても新鮮です。まだ来て間もないので分からない事だらけですが、サポートという役割をいただき仲間のサポートをさせてもらっています。今は自分の経験を話し背伸びをしなくて良い環境で気楽にやらせてもらっています。3 つの施設とそこで知り合った仲間の事を思い出すと自分は幸せです。今の僕は初めて満たされています。今までそしてこれから関わる皆様に心より感謝を。ありがとう　結局最後は感謝ですね。

サポートのTAC

那須TC　集合写真